

しんらん交流館公開講演会  
水辺内枢唄  
しやかないひつぎうた

劇団希望舞台プロジェクト

コスモスの花によみがえる  
お父の顔お母の唄……

水上勉作

題字 武田昭龍

2019年 「水上勉生誕 100周年記念」

5月 10日(金)  
11日(土)

開場 18:00  
開演 18:30  
(終演 20:10)  
開場 13:30  
開演 14:00  
(終演 15:40)

しんらん交流館  
2階大谷ホール

■一般前売 / 3,000円 ■大学生前売 / 2,000円 (当日500円増/全席自由)  
■高校生以下・障がい者手帳をお持ちの方 / 1,500円(全席自由)

主催「水辺内枢唄」を観る会 共催 真宗大谷派 協賛 真宗教団連合 推薦(公財)全日本仏教会

お問合せ

■しんらん交流館内 企画調整局 075-371-9208  
mail>>> shinrankoryukan@higashihonganji.or.jp  
HP>>> http://jodo-shinshu.info



■希望舞台(荻原) 090-4064-6981  
mail>>> kibou\_butai@mac.com  
HP>>> http://www.kibou-butai.com



# わけへだてなき優しさと勇気 時代に問いかける人間賛歌



藤田 尚希  
(希望舞台)



吉塚 大智  
(劇団俳優座)



ふじ子役・有馬 理恵  
(劇団俳優座)



宮川 崇  
(劇団俳優座)



荻原 ゆかり  
(希望舞台)



高宮 千尋  
(劇団俳優座)



椎名 慧都  
(劇団俳優座)

チェロの「生」の響きが  
舞台へと誘う。



チェロ奏者  
高橋 義人

ものがたり…  
酒を吞まずにはいられな  
かった父・弥太郎が死んだ  
日、ふじ子は父を焼くカマの  
掃除をつづけていた。ふじ子  
の胸にさまざまな思い出が  
よみがえる。  
「なして、人は焼場の子と  
聞くと、あつた冷てえ眼で見  
るんだべか」  
昭和20年、終戦間近なあ  
る吹雪の夜、ふじ子はまだ小  
学六年生。コタツを囲んで家  
族の楽しい団欒のひとつとき、  
一人の傷を負った怪しげな男  
が転がり込んで来た。  
「こんた、吹雪の晩に訪ね  
てくる人なんていねえあんだ  
…」  
家族はその男を暖かく迎  
える。父は酒を勧め、母は故  
郷の木挽き唄をうたい、ふじ  
子は舞踏を披露した。誰も  
訪れない焼き場の夜に、ぎ  
やかなひとときが流れる。だ  
が…。

父が山の畑いっぱい育て  
たのは焼いた人の灰で育てた  
コスモス。人の顔かたちが違  
うように、コスモスの花もま  
た、ひとつひとつ違って風に  
揺られて咲いている。  
父の言葉が心に浮かぶ。花  
は死んだ人の顔だやー。



## ふり返れば 見えてくる 由井 數 / 演出

日本人がやらなければなら  
ない仕事

不自由な体を車イスに  
乗って地方の公演地で終演  
後、スタッフ、出演者をねぎら  
い語ってくれた水上さん。

人の世界から隔離され、さ  
げすまされた焼き場の家族、  
その父親が裏山に咲かせたコ  
スモスは焼かれた人の灰が育  
てたものだ。

人はいざれ死ぬ。誰もが  
知つていながら、その死を恐  
れ、怨み嫌い疎外する。その延  
長線に人の差別を見る。



JR 京都駅 中央改札口より徒歩 12分  
地下鉄 五条駅 8番出口より徒歩 3分  
市バス 烏丸六条バス停より徒歩 1分

焼き場の娘・ふじ子が「女  
としての生き方を閉ざされ怒  
り狂うのは、けたものの生死  
をかけた、たたかいに似てい  
る。たたかいにあけれ、疲れ  
果てた末にたどりついた世界  
運命を受け入れ生きようと  
するとき見えた世界こそ、彼  
女の新しい境地であった。

失うものをもたない生命力  
と言ふべきだろうか。さげす  
みや反抗から自らを解放する  
とき、人はかぎりなく美しく  
豊かであるにちがいない。

混沌の時代にあつて、彼女  
がたどりついた境地はきわめ  
て現代的である。

水上さんが逝つて十四年  
が過ぎた。

二〇一八年四月

## 2001年、長野市公演を観劇して下さった水上さん。

「日本人がしなければなら  
ない仕事」と言葉を確かめるよ  
うに語られ、「全国千回公演を  
目指して下さい」と励ましを頂  
きました。



出演協力  
劇団俳優座

- スタッフ
- 演出 由井 數
  - 演出補 加藤 頼
  - 音楽 余田 崇徳
  - 美術 杜江 良
  - 照明 高橋 康孝
  - チェロ演奏 高橋 義人
  - 劇場制作 玉井 徳子
  - タイトル 武田 昭龍
  - コスモス画 荒木 幸史